

特性を生かした

新しい時代の町づくり

「南関」はその地名が表わしているように遠く奈良、平安の頃から国境の陸上交通の要所として宿駅があり、鎌倉時代には、「松風の関」又は「大津山の関」という関所があったことが源平盛衰記などに記され、戦国諸領の接点にもなっていたことから古戦場の多くを残しています。

関所跡は福岡県山川町の背戸にありましたが、今は九州高速道の通過によって埋没しています。この付近は往時南関の大津山城主の領地で、六代目城主の娘が筑後三池の領主に嫁ぐとき化粧田につけられたのが、そのまま現在の福岡県になっています。

この大津山の関を境に、南を「関の南」、福岡県になっている北を「関の北」と呼んでいたのを、戦国時代から南を「南の関」の名で呼ぶようになったと伝えられています。これが肥後の北部にありながら「南の関」というのは何故かと問われるゆえんです。さらに「なんかん」と音読されるようになったのは明治十年の西南の役に、有栖川宮の率いる官軍の大本営が南関の正勝寺に設けられたとき呼び易いように「なんかん」を通称名にしたのが由来とされています。

南関町といえど存知の「関の手打ちそうめん」がありますが、明治になって一般に広まり二十年代には町にそうめん専用の製粉工場もできて各戸で作ったそうめんを集荷販売する組織もありまし



▲54年8月開館の農業就業改善センター
手前の広場は同じく8月から使用されるようになった町民運動場

ふるさとを見直そうと数地区で復活した豊年太鼓踊り。民芸保存会主催の競演が毎年8月1日関の祭りに催される。



54年4月移転改築なった町立養護老人ホーム延寿荘



▲小岱焼登り窯跡（瀬上窯）

た。そして大正時代には街筋の裏通りや近くの農家までが、専業或は副業として製めんしその数は二百戸に及んだといえます。

北原白秋は当時の風物を歌にしています。

「掛け並めて玉名乙女が桿きのばす翁
そう麺は長き白糸」

「手打ち案麵戸ごと掛け並め日盛りや
関のおもてはしづけかりにし」

現在数軒がそうめん作りに精を出していますが、このある風味が好評で東京・大阪からも注文が殺到し、シーズンは需要に応じ切れない状況です。又、特産品としては小代焼があげられます。小代焼は藩主細川忠利の肥後入国に従って、豊後の国から移り住んだ四人の陶工が小岱山麓の南関宮尾で製陶したことに始まるといわれ、旧のほり窯も保存されています。その近くでは坂井氏が窯を開き熊笹などを使って昔ながらの製法で伝統工芸を焼き続けています。

さて、南関町は前述のとおり北側から西側にかけて福岡県の山川町と大牟田市に隣接し南は荒尾市と玉名市、東と南に三加和町と菊池町に接していますが、それぞれ三池山、小岱山、二城山などの大小の山系によって境界をつくるいわゆる小盆地を形成しています。総面積七〇・〇七平方キロの三分の一が山林また三分の一が耕地で、町の中央部の丘陵台地や山の斜面に畑や樹園地、台地をめぐる河川の流域に水田が拓けています。地質は概ね変成岩土壌ですが、耕土は肥沃で米作とともに、くり、みかん、たばこやそ

菜に適し、南部の白間山一带は、良質な珪砂長石の広大な採取地にもなっています。

町の産業経済は、もちろん農業が中心ですが、比較的豊かな風土と有明臨海工業都市の近郊農業地域という恵まれた条件を備えていながら、農家の経営規模が小さく、米の生産調整なども加わって兼業化が急激に進んで、二千世帯の農家のうち、専業農家は僅かに一〇％に過ぎません。このため専業農家の育成や農業経営規模拡大が大きな課題となっています。そこで、町では主要食糧基地としての立場から、農業構造改善事業に取り組みとともに農業振興地域の指定を受け、米を主幹にそ菜、果樹、たばこ、畜産など合理的な複合経営の促進と生産性向上のための土地改良或はハウス栽培等立地条件を生かした適地適作の方針に基づく栽培体系の改善を図っています。とくに農業基盤整備事業には、生産規模や地勢に即した独自の小規模ほ場整備の補助制度を設け、生産意欲の高揚と生産実績の向上に役立てています。また兼業農家に対して農外所得の安定や若年労働力の流出防止のため既存商工業の振興と質のよい農村型企業導入に努め、農工併進による調和のとれた産業開発策をとっています。この具体策として農業就業改善センターを一億一千万円をかけて建設し、この八月から営業指導や就業者の技術指導、生活改善などの研修を実施しています。

又、町振興の基盤となる道路網の整備改良には、四十二年度から町道舗装をは

じめとして精力的に取り組んだ結果、末端に至る生活関連道の舗装はほぼ一〇〇％完了し、専ら農林道整備を急いでいるところです。

次に教育関係では、町の教育文化センターに代わる公民館を五十一年度で一億八千万円の費用で改築、学校校舎も永久構造を目標に改築計画を立てずして小学校四校のうち、二校が鉄筋コンクリート化を実現しました。

このほか、福祉対策として、ことしの四月温水暖房床や風呂等に太陽熱を利用して、住みやすさを第一条件に合理的な設備をもつ養護老人ホームを一億八千万円で建設、保育園も耐久舎屋に改築しています。

さらに又、スポーツを生活日課とする考えや余暇活動の一つとする昨今の事情に応じて町民運動場を設置、この夏から使用に供し住民の強い要望に添えています。運動場は四六〇〇〇平方メートルの用地を自衛隊の協力を仰いで五十二、五十三年度に整地、三〇〇メートルのトラックと併用に野球一面、ソフトボール三面が同時使用でき、現在テニスやバレーコートとゲートボールをそれに弓道場も計画中で、秋には町民体育祭を予定しています。

以上、南関町の現況を述べましたが、緑に囲まれた美しい自然を受け継がれた伝統文化に根ざした温かい人情を大切にしながら、地域の特性を十分に活用することによって、町民の健康安全、利便、快適そして豊かさを追求すべく町ぐるみの新しいふるさとづくりに邁進しています。